

(別添 3)

【今帰仁村】

校務 DX 計画

文部科学省より、令和5年3月に「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言をとりまとめ、次世代の校務DXの方向性が示されたところである。

ここでは、現在の校務情報化の課題、今後次世代の校務支援システムの整備やクラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用といった次世代の校務DXの方向性、今後取り組むべき施策について記載されている。

本村として教職員の働き方改革の検討は急務であり、今後とも各学校と連携を取りながら校務のDX化を図っていき、教職員の働き方改革を促進していきたい。

1. クラウドツールを活用したペーパーレス・デジタル化の推進

本村ではグループウェアを導入しているため、情報共有や連絡等にクラウドツールが活用できる環境にある。現在教職員間の連絡はクラウドツール利用が一般的となっているが、職員会議資料や研修資料を慣例で印刷配布するケースや、クラウドツール利用で提出できる書類を印刷物で求めているケースが散見される。より一層のクラウドツールを活用したペーパーレス化を推進し、業務のデジタル化を図る。

2. 保護者との連絡ツールの活用について

保護者との連絡ツールを活用し、保護者への配布物をデジタル化することで、配布物の紛失や未受領のリスクを軽減し、保護者が必要な情報にいつでもアクセスできる環境を整備する。さらに、同ツールで欠席連絡もデジタル化し、保護者が迅速かつ簡単に連絡できるようにする。これにより、配布物の準備や、欠席連絡の電話対応が削減し、業務の効率化を図る。

3. FAX・押印等の制度・慣行の見直しについて

FAXの過度な利用・不必要な押印はクラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害するものと考えられるので令和6年8月9日付け文部科学省事務連絡「学校等のFAXでのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」を徹底し、クラウドツールを活用することによって校務DXを推進する。

4. 次世代校務支援システムの導入について

沖縄県教育委員会と連携し、次世代校務支援システムの導入に向けて連携を図り、校務DXの推進を図っていく。また、スムーズに次世代の校務システムへと移行できるよう、校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、セキュリティの高度化、業務フローの見直し等、望ましい校務の在り方に関する検討を実施する。